

2020年度事業報告書

概況

本年度は、大学生等の奨学金貸与事業から学資給与事業への一本化を実施して2年目を迎えたが、公益財団法人として広く公益に寄与する事業運営を行うべく、育英事業の適切、かつ円滑な推進を図るとともに、近年の教育費等の増嵩や厳しい資産運用環境を踏まえて、事業基盤の一層の強化を図り、事業内容の充実・改善に努めた。

また、当育英会は、10月に設立50周年を迎え、記念行事を開催する予定としていたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により開催を見送ることとなった。

I. 事業状況

1. 学資給与事業

本年度の学資給与事業は、前年度と同様に、幼児給与金については月額12,000円、小学生給与金は月額13,000円、中学生給与金は月額24,000円、高校生等給与金（特別支援学校含む）は月額30,000円、大学生等給与金は月額50,000円を給与した。

また、入学記念品代として、小学校新入生については1人70,000円、中学校及び高等学校等の新入生は1人50,000円、大学等新入生は1人150,000円をそれぞれ贈呈した。

(1) 奨学生採用状況

奨学生願書は年4回受付け、これを奨学生選考委員会に諮問し、採用を決定した。

本年度の採用状況は、表-1のとおり、前年度からの継続奨学生165人と新規に38人を採用した。

表-1 2020年度学資給与奨学生採用状況

(単位：人)

区 分	継続者	新規採用者					異 動 (増・減)	年度末 現 在
		第1回	第2回	第3回	第4回	計		
幼 児	4	0	0	0	0	0		4
小 学 生	34	1 (1)	0	0	3	4 (1)		38 (1)
中 学 生	39 (1)	2	1	1	2	6		45 (1)
高校生等	52 (3)	2	2	1	1	6		58 (3)
大学生等	36	15	5	0	2	22		58
計	165 (4)	20 (1)	8	2	8	38 (1)	—	203 (5)

注：()の数字は特別支援学生で内数である。

(2) 学資給与の実績

学資給与金は、3カ月分ずつ年4回に分け総額74,128,000円を送金した。この内訳は、幼児給与金576,000円、小学生給与金5,564,000円、中学生給与金12,288,000円、高校生等給与金21,300,000円、大学生等給与金34,400,000である。

(3) 入学・卒業記念品の贈呈

入学記念品として、総額4,090,000円を贈呈した。この内訳は、小学校新入生に140,000円、中学校新入生に800,000円、高等学校等新入生に600,000円、大学等新入生に2,550,000円である。

また、中学校卒業生（中学校を卒業し就業する奨学生）に対する卒業記念品の贈呈については、該当者はいなかった。

なお、これらの学資給与事業は基本財産運用益および修学助成資金積立資産（修学助成寄附金）をもって実施した。2020年度都道府県別奨学生数及び給与額は、別表(1)のとおりである。

2. 奨学金貸与事業

前年度（2019年度）より学資給与事業へ一本化されたことにより、新規の貸与は発生しない。2018年度までの奨学貸与金については、規程に基づき返還手続き及び処理を行った。

奨学貸与金返還等の実績

奨学貸与金の本年度返還実績は、表－2のとおり総額31,448,650円である。

前年度末の奨学貸与金残高は292,874,570円、本年度奨学貸与金返還総額は31,448,650円で、本年度返還免除額は対象者2人で1,065,000円であることから、本年度末現在の奨学貸与金残高は260,360,920円となった。

表－2 2020年度貸与金返還等の状況
(単位：人、円)

区 分	実人数	金 額
A. 前年度末奨学貸与金残高	319	292,874,570
B. 本年度奨学貸与金返還総額 (内返還完了者)	190 (30)	31,448,650
C. 本年度奨学貸与金返還免除額 (特別免除)	2 (1)	1,065,000 (765,000)
(免 除)	(1)	(300,000)
D. 本年度末奨学貸与金残高 (D = A - B - C)	287	260,360,920

3. 育英事業の推進に必要な事業

(1) 募 金 活 動

漁船海難遺児を励ます全国協議会等及び水産関係団体の協力を得て、基盤強化を図った。

(2) 普及指導活動

ア. 「育英会だより」の発行

年3回各4,500部発行し、遺児家庭、JFグループ及び関係方面に広く配布した。

イ. 広報・募金コーナー設置

本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大や収束が見通せない状況の中、各種イベント等の中止や延期が相次ぎ、そういった会場における広報・募金活動の実施が十分に行えなかった。

ウ. 奨学生・保護者交流活動の実施

毎年夏休みに実施している「ふれあい旅行」に代えて、設立50周年記念行事（遺児交流会「交流の夕べ」）を実施する予定としていたが、新型コロナウイルスの影響により開催を見送った。

エ. 広報活動

事業の趣旨及び内容について広く一般国民の理解を得るため、機会あるごとに資料の配布や報道機関等の協力を得てPRを行い、募金及び「励ましおじさん・おばさん」の募集に努めた。

また、ホームページを用い給与事業への一本化の周知について情報公開した。

オ. 文集等の作成配布

本年度は育英会設立50周年にあたり、漁船海難事故の根絶と残された家族の幸せを願い、第10作目となる「漁船海難遺児と母の文集」を作成した。

また、設立50周年を記念して、「50年の歩み」（小冊子）を作成した。

(3) 実 態 調 査

中学校、高等学校等及び大学等の卒業生の進学・就職に関する動向等、卒業後の進路を調査した。

II. 寄附金、基本財産、特定資産

1. 寄附金（修学助成寄附金）

（1）水色の羽根募金

本年度の寄附金は、新型コロナ禍の影響によるイベント等での募金活動が十分に行えなかったものの、大口の寄附を受けたこともあり、表－3のとおり計画を上回る95,829千円の実績となった。計画対比191.6%（計画50,000千円、前年実績39,138千円）

表－3 2020年度一般寄附金実績
(単位：円、%)

区 分	金額	構成比
J F グ ル ー プ 募 金	12,155,715	12.7
一 般 寄 附 金	83,672,811	87.3
合 計	95,828,526	100.0

（2）励ましおじさん・おばさん奨学資金

定期的に支援いただく「励ましおじさん・おばさん」については、前年同様に募集を行った結果、2,958,500円となった。計画対比84.5%（計画3,500千円、前年実績2,815千円）

なお、年度末現在数は77人（前年度74人）であった。

2. 基本財産

基本財産は、本年度期首額5,957,776,837円に対し、表－4のとおり本年度期末額5,958,235,786円となった。

表－4 2020年度期末基本財産額
(単位：円)

本 年 度 期 首 額	5,957,776,837
投 資 有 価 証 券 償 還 額	490,000,000
投 資 有 価 証 券 購 入 額	490,000,000
投 資 有 価 証 券 当 期 償 却 額	458,949
本 年 度 期 末 額	5,958,235,786

3. 特定資産（修学助成資金積立資産）

特定資産の修学助成資金積立資産は、本年度期首額239,072,277円に対し、表－5のとおり本年度期末額321,094,835円となった。

表－5 2020年度期末特定資産額
(単位：円)

本 年 度 期 首 額	239,072,277
本 年 度 増 加 額	130,547,912
本 年 度 減 少 額	48,525,354
本 年 度 期 末 額	321,094,835

本年度期末額321,094,835円の内訳は、投資有価証券115,232,043円、預貯金205,862,792円である。

なお、投資有価証券の増減については、本年度期首額15,294,091円に対し、期中購入額100,000,000円、当期償却額△62,048円であり、本年度期末残高は115,232,043円となった。